

ネット情報、トランスコスモス財団の助成事業に採択 馬場学長と平井理事長が懇談



馬場学長(左から3人目)、平井理事長(同4人目)と出席者一同

給付金型助成プログラムを通じて学生の育成に取り組むトランスコスモス財団(港区)の平井孝始理事長ら4人が8月19日、神田キャンパスを訪れ、馬場杉夫学長、飯田

周作ネットワーク情報学部長らと懇談した。今年度、本学ネットワーク情報学部が、財団の学術・科学技術等の分野への助成事業に申請。「情報学と語学力、国際感覚

を身につけた人材の育成及びDX関連事業を見据えたキャリア形成支援」をテーマとした取り組みが採択された。海外事業視察プログラムとして7月に学生6人が渡米し、コンピュータグラフィックスに関する国際会議・展覧会「SIGGRAPH H2026」で最先端の技術を学んだ。

懇談では、財団の活動理念やこれまでの実績などが説明された。

馬場学長が「社会の早い変化に、大学として対応していく必要がある。先端技術を学ぶ今回の取り組みは大きな意義のあるものだ」と期待を述べ、飯田学部長は「今後も財団の協力を得ながら、学生の成長を支えていきたい」と語った。



1年次生に語り掛ける榎本さん

専修大学入門ゼミナール 榎本会計人会会長 商学部で講話

本学では1年次生を対象に、前期に「専修大学入

門ゼミナール」を開講している。大学での学修を行うための導入科目で、アカデミックスキルの修得などを目標に、特色ある授業を行っている。

商学部では、専修大学会計人会と連携して本学出身の税理士・会計士を

海外研究員に
松嶋准教授(人間科学)
相馬学術奨励基金

若手研究者の海外派遣などを行う相馬学術奨励基金の2026年度海外研究員に、人間科学部の松嶋祐子准教授(平19院文修)が決まった。

松嶋准教授は犯罪心理学が専門。派遣先はニュージーランドのオークランド大学心理学部で、期間は7月20日から27年7月19日まで。研究課題は「グッド・ライフ・モデル(GLM)」に基づく犯罪歴を有する人々への更生支援」。

日本語パートナーズ派遣事業に参加



鈴木愛唯さん(経済4)

経済学部・狐崎知己ゼミの鈴木愛唯さん(経済4)は、昨年5月から約1年間、タイの中高一貫校で日本語教師のアシスタントとして活動した。充実した滞在を振り返り、「言葉が持つ『つなぐ力』の素晴らしさを改めて感じた。学生時代にこうした経験ができたことは宝物になる」と話している。

募。タイへの派遣が決まった。「日本語パートナーズ」の主な活動は、現地での日本語授業のサポートと日本文化の紹介。タイでは外国語科目のひとつとして日本語を教える学校が多く、鈴木さんは発音の手本を見せたり、平仮名や漢字を書く際のコツを伝えたりした。

以前から子どもの教育や貧困問題に関心を持っていた鈴木さんは、「途上国の貧困と開発」を研究テーマとする狐崎ゼミで学ぶため、専大に入学した。ゼミや授業を通じて知見を広げるなかで、海外で日本語教育に携わりたいと考えるようになり、国際交流基金の日本語パートナーズ派遣事業に応

日本文化を紹介する授業では、生徒たちと一緒に折り紙やわらび

タイの中高生に 日本語・日本文化伝える



タイの生徒が作った年賀状

言ってくれた生徒もいて、うれしかった」と振り返る。鈴木さん自身も多くの学びを得た。初めて

餅づくりを楽しむ一方で、文化祭では得意の書道の腕前を披露し、日本文化の奥深さを伝えた。また、鈴木さんの発案で、タイの生徒たちと狐崎ゼミ生とで年賀状を交換し、親睦を深めた。「日本文化に興味を持つことで、日本語学習に対しても意欲的になってくれた。『将来、日本に行きたい』と

の長期の海外生活で不安があったなか、タイの人たちの気さくな人柄と「マイペンライ(大丈夫、気にしないで)」という言葉に何度も助けられた。以前は物事をネガティブに考えてしまうことが多かったが、マイペンライの精神で、失敗を恐れず何事にも前向きにチャレンジできるようになった」と語る表情は自信にあふれている。

滞在期間中にタイとカンボジアの間で紛争が起き、国境近くの学校に派遣されていた鈴木さんはバコンコクに避難。1カ月あまりホテルでの避難生活を余儀なくされた。思いもよらぬ経験もしたが、将来的には再びタイに戻りたい。今度は正規の日本語教師として子どもたちに日本語や日本文化の魅力を伝えたい」と笑顔で語った。

専修国際人 #10



国際的に活躍する専修人を紹介する「Globali専修 (グローバル「専」ション)」。今回はフランス・トゥール大学修士課程「芸術・文学・文明コース：舞台芸術における文化プロジェクトの創出」で学ぶ牧野洋奈さんに登場いただく。

トゥール大学修士課程

牧野 洋奈さん(令6国コミュ)

HIRONA MAKINO



フランス留学で生き方見直し 現地の大学院に進学

——国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科の1期生ですね。

「全員留学」に魅力を感じて入学しました。フランスの文化や言語に関心があり、まったくの初学者としてフランス語学習をスタート。ただ、コロナの影響で授業はオンライン、2年次での海外研修留学も延期になりました。落ち込みましたが、「来年こそ」と思って勉強を続け、画面越しに同級生と励ましあっていました。

——3年次で念願のフランス・トゥールに半期の海外研修留学へ。

本当にうれしかったです！日本とは異なる価値観に触れ、豊かさを実感しました。年齢に関係なく学び、チャレンジを続ける人々と出会い、自分の生き方を見直すきっかけになりました。

——それが、大学院進学につながることに？
そうです。もともと舞台芸術に興味があり、こ

こで専門的に学びたいと考えるようになりました。大学卒業後1年間、現地の語学学校に通い、2025年9月に大学院に入学しました。

——修士課程1年目が終わりましたね。

大変だけど充実した1年でした。初めて触れる経済学やマネジメント、欧州の文学的常識などには苦労しました。言葉の面でも、アカデミックな内容になるとハードルが高くなり、同級生に助けられました。大学時代、今井ハイデゼミで英語でのプレゼンや海外でのリサーチの仕方を学んだことが、役に立っています。

日本文化を発信している団体でのインターンシップにも参加し、7月の「ジャパン・トゥールフェスティバル」に携わりました。大規模イベントで運営の楽しさや難しさを実感しつつ、大勢の方に日本の良さを伝えることができました。

——語学力向上やコミュニケーションのコツは。

フランスの学生は、意見の違いもはっきり主張します。最初は戸惑いましたが、少しずつ私も主張できるよう頑張っています。そのためには知識が必要です。ニュースやラジオを聴いて、理解する必要があります。これは、耳をフランス語に慣らすのにも役立ちます。また、日常会話でも勉強でも、分からなかったらすぐに聞くことが重要だと思っています。

専大生へのメッセージ

Rien ne se perd,
tout se transforme.

18世紀の化学者に由来する格言で、直訳すると「何も失われず、すべては変化する」という意味です。私は「無駄なことはなにもない」と捉えています。失敗したとしても、どんな経験も無意味ではない、自分の成長の糧になると信じています。トゥールは本当に素敵な街なので、留学先で迷うことがあったらぜひ選択肢の一つにしてください。